

第40歩

「祝：都市景観大賞受賞」

「大きな共感を得て大賞に選ばれたのは、かつての名声を失いつつあった著名な観光地を見事に甦らせた「高松市屋島地区」である」と審査委員長の陣内秀信氏が総評で高らかに宣言されています。令和5年度の都市景観大賞（都市空間部門）を屋島が受賞しました。

現地視察にも来ていただいた佐々木葉早稲田大学教授は、審査講評の中で「雄大な自然の魅力と楽しかった記憶を蘇生させるための取り組みが、立場を超えたデザインの力によって成し遂げられた」と記されており、修景された新たな景観の意義と感動を伝えています。そして、「本事例はまさに持続性のある景観形成の先駆的モデルであり、多くの学びを得た」と過分なお褒めをいただきました。

都市景観大賞が今の表彰制度になった平成23年度以降、都市空間部門の大賞受賞は、四国では平成28年度の松山市のロープウェー街・大街道周辺地区に次いで2例目です。ちなみに平成25年には、本市の高松丸亀町G街区地区が優秀賞を受賞しています。

屋島活性化事業の原点である「屋島会議」の設置は、平成23年8月でした。そして、その答申を受け、具体的な事業を掲げた「屋島活性化基本構想」を平成25年1月に策定し、同時に屋島に関わる官民関係者、有識者が一同に会し、基本構想を推進する組織として「魅力ある屋島再生協議会」を設立し、今日に至っています。

「屋島会議」を作る前に、このコラムに「『大屋島』の復活を願って」と題した一文を認めました。日本で最初の国立公園として瀬戸内海国立公園が指定され、屋島が天然記念物と史跡にも指定された翌年、昭和10年発行の「大屋島」と題された小冊子の中に「屋島は風光に、史蹟に、天然記念物に、信仰に諸要素を備えて、海上公園の王座として、国宝的価値を有するに至ったのである」とあります。まさに、この国宝的価値を蘇生させるための取り組みとして、屋島に関わる官民の活動が評価され、今回の「都市景観大賞」獲得に至ったのだと関係者とともに喜んでいきます。

